

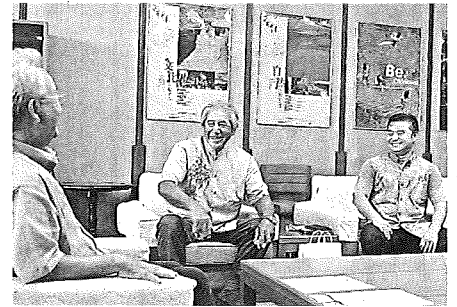
ワールド王修会・知念会長

空手新時代

沖繩小林流伝統空手道・古武道連盟「ワールド王修会」の知念賢祐会長は12日、県庁に富川盛武副知事を訪ね、8月16日～19日に豊見城市の沖繩空手会館であったサマーセミナーや同月13

日に東京都で開催した同会の世界大会の成功を報告した。

知念会長は1976年にフランスへ渡り、40年以上にわたって、海外で沖繩空手の普及に尽力してきた。今では世界30カ国に支部があり、6千人の門下生を抱えるという。昨年3月には



「海外から200人以上の空手家を連れてきて、大会を盛り上げたい」と抱負を述べた。富川副知事は「両方の空手の実情を知っている方がこれからの沖繩の空手界を引っ張ってほしい」と話した。

富川盛武副知事(左)にセミナーや世界大会の成功を報告した知念賢祐会長(中央)と山田泰生事務局長(右)12日、県庁

本のあ 県内各



県内の書店や古書店、出版関係者が本に関する多彩な催しを行う「ブックパリーOKINAWA2017」(主催・同実行委員会)が15日から11月5日まで、県内各地で行われる。本を通じた街の活性化イベント

専修大生「沖繩」学ぶ

専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科の学生が沖繩を訪れ、基地問題や沖繩戦などを学ぶ「沖繩ジャーナリズム論」講座が今年で10年目を迎えた。今年の講座は11日から5日間で、テーマは「当事者の声を聞く」。名護市辺野古で米軍新基地の建設に反対する市民の抗議行動の現場や

宜野湾市にある米軍普天間飛行場、2004年に米軍ヘリが墜落した沖繩国際大学などを訪ねている。

学生31人は12日、沖国大を訪れ、同大総合研究機構の特別研究員石川朋子さんから米軍ヘリ墜落事故当時の状況な

戦争・基地 自ら考える

石川さんは墜落当時の緊迫した状況を「とにかく記録に残さなければと大学敷地内を走り回り、写真を撮った」などと振り返った。基地問題について、「いろんな人の経験を聞いて、自分に引きつけて考えて」と訴えた。



キャンプ・シュワフゲート前を訪れた専修大学「沖繩ジャーナリズム論」講座の学生ら=13日、名護市辺野古

的に捉え、「今回見聞きしたことは、自分の口から身近な人に伝えたい」と話した。3年の吉野彩さん(21)も東

京都は基地問題について「複雑で、今は賛否を決められない」と悩む。「いろんな立場の人から話を聞き、自分の意見を持ちたい」と話した。学生らを引率した山田健太教授は「10年前と比べ、沖繩と米軍基地を取り巻く状況がより難しくなった」と指摘。一方で「講義に参加した学生と再会すると、社会情勢を考えるとときに沖繩を訪れた経験も参考にしている」と喜び、「今回の学生も、沖繩や日本、世界の状況について考えるきっかけにしてほしい」と話した。13日は1959年に米軍のジェット戦闘機が墜落したうるま市の宮森小や米軍の新基地建設工事が進む名護市辺野古なども訪れた。

(社会部・宮里美紀)

ブックパリー OKINAWA2017 (主な催し)

期間 9月15日(金)～11月5日(日)

イベント名	場所・問い合わせ先	期間
山城えりか原画展	リプロ・リウボウブックセンター店 電話 098(864)0315(言事堂)	9月15日(金)～10月15日(日)
第19回 沖縄県産本フェア	リプロ・リウボウブックセンター店 電話 098(867)1725(リプロ)	9月15日(金)～24日(日)
かつてここには町の本屋さんがあった～なつかし写真展～	大城書店読谷店 電話 098(957)1844(同店)	9月17日(日)～24日(日)

9月15日からリプロ・リウボウブックセンター店で「第19回沖縄県産